

日本海洋学会 2014 年度第 4 回幹事会 議事録（案）

日時：2014 年 9 月 13 日（土）18：00～20：10

場所：長崎大学水産学部 2 階大会議室

出席者：植松会長、須賀副会長、岡、小畑、河野、久保田、杉崎、日比谷、山中、津田、
原田、神田（記録）、事務局・毎日学術フォーラム（出戸、平坂）

議題：

1. 議事録（案）確認（神田幹事）

2014 年度第 3 回幹事会の議事録を承認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について（岡幹事）

資料にもとづき 2014 年 6～7 月の入退会を承認した。学生会員が増加した結果、前年度末の退会者数をある程度回復できた。

(2) シンポジウムの後援・協賛等について（岡幹事）

日本原子力学会誌（ATOMOS）への執筆依頼（福島原発事故あるいは東日本大震災と海洋学会との関わりについて）があったことが報告され、応諾することで対応したことが報告され、承認した。すでに津田幹事から原稿提出済みである。

(3) 募集・推薦等の依頼について（岡幹事）

資料にもとづき説明があり、ML 配信その他の対応をしたことが報告され、承認した。

(4) 2014 年度海洋未来技術研究会海外渡航援助（後期）について（須賀副会長）

2 件の応募があったことが報告され、1 件は採択、もう 1 件については発表内容等の詳細および航空運賃等の妥当性を確認の上で採択することとし、とりあえず保留としていることが報告され、承認した。

(5) 海洋観測ガイドライン WG からのガイドライン刊行提案について（河野幹事）

これまでの 3 回の議論を踏まえ、海洋学会としてオンライン版（日本語、英語）を順次発行することなどについて提案があった。議論の上で提案を承認し、今後継続的にアップデートすることから、会則 22 条にもとづく委員会を発足させて対応することとし、秋季評議員会で承認を求めることとした。

(6) 2015 年秋季大会開催について（山中幹事）

2015 年 9 月 24 日～28 日に愛媛大学を会場とし、武岡英隆会員を大会委員長として開催することが提案され、承認した。

(7) 大会運営について（山中幹事）

大会運営 WG での議論は継続中であるが、2015 年度春季大会では、シンポジウムの受付を例年より早めに幹事会で行うこととし、シンポジウム提案のうち本大会セッションとして実施可能なものについては、申込者と協議することとした。ベストポスター賞については、大会委員会側から単独では実施しがたい旨の意向が示された。形式上

はこれまで通り大会委員会の担当とし、幹事会が全面的に支援することで実施することができないか、大会委員会に再依頼することとした。

(8) 2014 年秋季評議員会議事次第案について (岡幹事)

資料にもとづき提案があり、「海洋観測ガイドライン (仮称) 編集委員会」の設置を審議事項に追加して承認した。

(9) 第 55 回東レ科学技術賞推薦について

推薦希望が 1 名の会員から提出されたことが報告され、学会としての推薦を承認した。

3. 報告事項

(1) 会長 (植松会長)

大型研究、フューチャーアースへの取り組み、若手育成事業、他学会との交流 (水産・海洋学研究連絡協議会、海洋政策学会、AOGS)、会員の特典拡大 (JOS-NL の充実)、海洋未来技術研究会の解散および海ロマン 21 からの支援予算の半減への対応、日本海洋科学振興財団からの協力協議への対応、学会財政状況 (和文誌印刷の経費削減、JO 掲載料課金の開始) について報告があった。

(2) 副会長 (須賀副会長)

若手育成の一環として、秋季大会開催中 (16 日午後 4 時～) に若手との懇談会を実施する。

(3) 庶務 (岡幹事)

日本海洋科学振興財団との協議 (8/19、11 月に懇談会実施予定)、2016 国際地学オリンピック組織委員会への推薦依頼は会長宛であったため市川洋会員 (2013 年度第 7 回で報告) から植松会長への交代、会員名簿の発行 (9/5 発送、広告件数が多かった)、平成 27 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 (科学技術賞および若手科学者賞) の推薦についての書類提出、について報告があった。

(4) 編集

①JO (日比谷編集委員長)

順調に刊行しているが、70 巻 4 号は論文数が揃うまで少し遅らせていること、8 月 1 日から投稿料の課金が始まったこと、2013 年の IF が 1.464 に上昇したこと、津田敦会員から提案された特別セクションを承認し、中村、本多両会員の特別セクションと共に編集中であること、二重投稿および自己剽窃の不正投稿が各 1 件あったこと、が報告された。

②海の研究 (久保田編集委員長)

順調に刊行しており、23 巻 5 号までオンライン公開済み、24 巻 1 号まで掲載論文が決まっているが、査読中の論文数が少ないので投稿の呼びかけをお願いしたいこと、印刷会社の変更によって年間約 100 万円程度節約できる見込みであること、が報告された。

③ニュースレター（津田編集委員長）

順調に刊行されている。

(5) 研究発表（山中幹事）

今後の大会開催予定について、資料にもとづき報告があった。

(6) 選挙（山中幹事）

役員選挙については 9 月 5 日に公示済みであり、今後の幹事選挙、賞選考委員半数改選、賞可否投票とあわせ、資料の日程にもとづき進めている。

(7) 広報（杉崎幹事）

9 月 10 日に秋季大会開催および研究発表トピックスについて、プレスリリースを行った。

(8) 海洋環境委員会（岡幹事）

第 2 回青い海助成事業が募集中である。

(9) 教育問題研究会（神田幹事）

今秋季大会期間中（9 月 13 日）にサイエンスカフェ、シンポジウムを実施した。

(10) 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

第 5 期体制が発足し、日比谷会員、原田会員が理事に就任した。

(11) 海洋未来技術研究会・日本海洋科学振興財団（須賀副会長）

海洋未来技術研究会の解散に際し、次回の春季大会において関係者に学会から謝意を示す方法を検討している。

(12) 震災対応（神田幹事）

津田幹事（前副会長）のお世話で、震災対応 WG 報告書が印刷された。

(13) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

昨年度と同じく 11 月に日本学術会議主催の学術フォーラムを開催する。今回は東北マリンサイエンス事業の研究成果も発表される。

次回幹事会 11 月開催で今後日程調整する。